

永平寺

平成23年12月第4週放送

おおみそか うんすい かね おおぼんしょう つ
大晦日、一人の雲水が大きな鐘、大梵鐘を撞いています。雲水とは、修行僧のことです。そこは「ゆく年くる年」に紹介されることの多い、福井県にある曹洞宗の大本山永平寺。そこで、除夜の鐘を撞かせて頂くというご縁に恵まれた、一人の雲水の姿です。

その雲水が永平寺へ修行に行く前に、テレビでよく見た光景です。まさか、自分がその鐘を撞くことになるとは、夢にも思っていませんでした。

テレビもラジオも無い修行僧に情報はあまり入りません。この冬は比較的暖かいと聞いていましたが、この年の冬は、2メートルくらいの雪を踏み固めた上に毎日1メートル以上の雪が降りました。永平寺の七堂伽藍は、しっかりと雪対策の雪囲いがしてあります。しかし、毎日雪かきをしないと伽藍の傷みが激しくなります。あかぎれやしもやけの手足をこすりながら、雪かきをしました。

その雲水は修行に来て一年目。先輩の修行僧から見れば、まだまだ半人前でしょう。しかし、除夜の鐘を撞く時間に手があいている者であれば係の者以外でも、除夜の鐘を撞かせて頂けることになりました。

除夜の鐘は、煩悩の数と同じ百八つ撞かれます。先輩雲水が時計を見ながら、年明けに合わせるために、何分おきにと決めて撞きました。雲水にとっては忘れられない思い出となったのです。

永平寺では毎日、朝・昼・晩・夜の計四回、大きな鐘、大梵鐘が撞かれます。しかし、鐘を撞く係にならなければ、決して永平寺の大梵鐘を撞くことは出来ません。なぜなら、永平寺は、この大梵鐘を始め、数々の鐘・太鼓・鈴などの音が、時間や行持の始まる合図となっているからです。

雲水が心をこめて撞く鐘の音は、永平寺から町中まで響き渡ります。大梵鐘を一つ撞くごとに、礼拝をしてお唱えをします。あらゆる世界に生きる者が、鐘の声を聞いて悟りへの道を歩みだすように、と……。

どうぞ皆様も、お近くの除夜の鐘を撞かせて頂けるお寺にお参りください。

皆さまの今年一年の無事を感謝し、新しい年がすばらしい年になるようにと願いを込め、鐘を撞いてみてはいかがでしょうか。